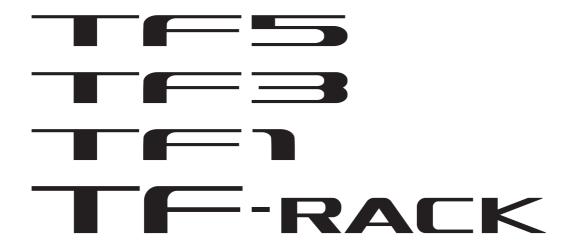


# **DIGITAL MIXING CONSOLE**





TF StageMix V4.5 ユーザーガイド

このたびは、ヤマハデジタルミキシングコンソール TF シリーズ用 iPad アプリケーション「TF StageMix」(以下 StageMix)をダウンロードいただきありがとうございます。 StageMix は TF シリーズのパラメーターをワイヤレスコントロールする iPad アプリケーションです。 StageMix を使用すれば、ミキシングエンジニアはステージ上で演奏者のポジションなど、TF シリーズから離れたところで直接 TF シリーズのミキシングパラメーターを操作できるようになります。iPad ならではのシンプルかつ直感的な操作性によってセットアップの時間が短縮され、 TF シリーズのライブサウンドセッティングがさらに快適なものとなります。

TF シリーズの最新ファームウェアは、下記の URL からダウンロードできます。

http://www.vamahaproaudio.com/iapan/

# ご注意

- ・このソフトウェアおよび取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- ・このソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・このソフトウェアおよび取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、別紙または別冊で対応させていただきます。
- Apple、Apple ロゴ、および iPad は、米国および他国の Apple Inc. の登録商標です。
- ・本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

はじめに	
ご注意	2
ソフトウェアの動作環境	. 4
Wi-Fi の設定	. 5
準備	. 6
 TF シリーズネットワークの設定	6
iPad の Wi-Fi 設定	6
StageMix の設定	7
各部の名称と機能	. 8
HOME 画面	8
SELECT MIXER 画面	9
UTILITY 画面	. 10
CUSTOM FADER BANK 画面	. 11
USER DEFINED BUTTONS 画面	12
RECORDER 画面	. 14
SETUP 画面	. 16
SCENE 画面	26
INPUT 画面	27
EQ 画面	. 29
GATE 画面	31
COMP 画面	32
SEND TO 画面	34
GEQ 画面	35
DELAY 画面	
FX 画面(FX1/FX2/InsFX1 ~ 6)	. 37
NAME 画面	39
困ったともは	<b>4</b> 0

- ・アップル社 iPad 第5世代以降、iPad mini 第2世代以降、iPad Air, iPad Pro以降
- · 対応 iOS: iOS 12 iPadOS 13以降
- ・ ヤマハデジタルミキシングコンソール TF シリーズ V4.0 以降
- ・ Wi-Fi アクセスポイント
- ・ CAT5 ケーブル(TF シリーズ~ Wi-Fi アクセスポイント間接続用)

各機器の取扱説明書に従って、Wi-Fi アクセスポイントを設定してください。特別な設定は必要ありませんが、外部からネットワークへの侵入を防ぐために WPA のようなセキュリティをかけていただくことをおすすめします。 以下の設定を参考にしてください。

- 1. Wi-Fi ネットワーク上で名前を設定します(これが「SSID」となります)。
- 2. セキュリティモード(例:WPA)とパスワードを設定します。
- 3. ワイヤレスモード、ワイヤレスバンドを選択します(例:802.11n 2.4GHz)。
- **4.** 可能であれば「Auto Channel Selection」を有効にします。 干渉が最小限におさえられたワイヤレスチャンネルが選択されます。

外部アンテナを複数使用すると、Wi-Fi アクセスポイントに接続しやすくなります。

# TF シリーズネットワークの設定

1. CAT5 ケーブルを使って TF シリーズのネットワークポートと Wi-Fi アクセスポイントを接続します。

AUTO-MDIX 機能のない古いアクセスポイントに接続するときは、クロスケーブルが必要になります。最近の機器の多くは AUTO-MDIX 機能をサポートしていますので、その場合はストレートケーブル、クロスケーブルいずれも使用できます。

2. イーサネットケーブルが Wi-Fi 機器の LAN ポートに接続されていることを確認してください。

(WAN ポートには接続しないでください)

# iPad の Wi-Fi 設定

DHCP または固定 IP アドレスを使って、iPad の設定を行ないます。

#### DHCP を使う場合

DHCP(ダイナミックホストコンフィギュレーションプロトコル)とは、サーバーが機器に IP アドレスを自動的に割り当てるネットワークプロトコルのことです。以下の手順に従って、DHCP を使った iPad の設定を行なってください。

#### 手順

- 1. iPad で設定メニューを開きます。
- 2. Wi-Fi を選択し、次に正しいネットワークを選択します。
- 3. 現在選択されているネットワークの右側にある青いマークをタップして、IP アドレスを編集するための画面を表示させます。
- **4.** [DHCP]を選択して、iPadがIP Address(IPアドレス)、Subnet Mask(サブネットマスク)、Router(ルーター)、DNSのデータを受信したことを確認します。
- 5. データが反映されない場合は、[Renew Lease] (DHCP リースを更新)を選択します。
- 6. 設定が完了したら、iPad のホームボタンを押して、[設定] メニューを終了します。

#### NOTE \_

- ・AUTO(→P.9)で接続する場合、IPアドレスについては、TFシリーズ本体と同じサブネットが設定されているかを確認してください。
- ・上記の**手順 5.** を行なっても DHCP の設定が適用されない場合は、お使いの DHCP サーバーの設定を確認してください。または、固定 IP アドレスを使って iPad の設定を行なってください。

# 固定 IP アドレスを使う場合

#### 手順

- 1. iPad で設定メニューを開きます。
- 2. Wi-Fi を選択し、次に正しいネットワークを選択します。
- 3. 現在選択されているネットワークの右側にある青いマークを押し、IPアドレスを編集するための画面を表示させます。
- 4. [IP を構成] → [手動]を選択します。
- 5. IP アドレスを設定します。

AUTO(→ P.9) で接続する場合は、TF シリーズの IP アドレスの第 4 オクテットのみを変えた IP アドレスを入力します。 (例: TF シリーズの IP アドレスが [192.168.0.128] の場合、iPad には [192.168.0.127] のように入力します。)

- 6. Subnet Mask(サブネットマスク): [255.255.255.0]を入力します。
- **7.** Router(ルーター): Wi-Fi アクセスポイントの IP アドレスを入力します。 通常、Wi-Fi 機器本体底面または取扱説明書に印刷されています。
- 8. DNS: Wi-Fi アクセスポイントの IP アドレスを入力します。(手順 7. と同様)
- 9. 設定が完了したら、[設定]メニューを終了します。

# StageMix の設定

TF StageMix を起動します。



SELECT MIXER 画面が表示されます。この画面では以下のようなことができます。

- OFFLINE DEMO モードに入り、TF StageMix の機能やユーザーインターフェースを試すことができます。
- ・ ネットワーク内にある TF シリーズ本体を選択し、StageMix を開始します。

#### オフラインデモモード

SELECT MIXER 画面で [OFFLINE] ボタンを押すことで、TF シリーズと StageMix が接続されていない(オフライン)状態でも、アプリケーションの使い方を確認できます。ただし、このモードではレベルメーターや多くのシーンメモリー機能は動作しません。

# ミキサーの選択と動作の開始

お使いの iPad が TF シリーズ本体と連動するように設定されたら、リストからミキサーを選択して [CONNECT] ボタンを押します。 TF シリーズ本体に接続されている TF Editor や TF StageMix がすでに最大数(合計 3 台)に達している場合は、IP Address の左横に禁止マークが表示されます。また、禁止マークが表示されている TF シリーズ本体を選んで [CONNECT] ボタンを押すと、接続できなかったことを示すメッセージが表示されます。

StageMix が TF シリーズ本体からパラメーター情報を取得する処理が終わると、ミキサーウィンドウが表示され、StageMix の準備が完了します。

StageMix が TF シリーズ本体と接続できない場合は、このユーザーガイドの巻末にある「困ったときは」をご参照ください。(→ P.40)

#### NOTE \_

- ・ワイヤレス接続のほかに有線 LAN でも接続できます。有線で接続する場合は、USB-C-USB アダプター(または Lightning-USB 3 カメラアダプター)と USB Ethernet アダプターが別途必要です。有線接続と無線接続の両方が接続されている場合は、自動判別により有線接続が優先されます。
- ・はじめて TF シリーズと接続するとき、接続を許可するかどうかの確認ダイアログが表示されます。「許可しない」をタップすると、それ以 降接続できなくなります。接続を許可したい場合は、iOS の設定→ StageMix 画面で Local Network をオンにしてください。

# HOME 画面

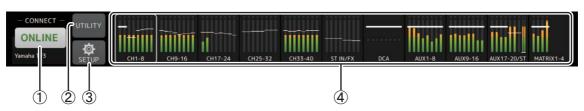
StageMix のメイン画面です。起動時はこの画面が表示されます。

TOOLBAR エリアにある [HOME] ボタンをタップしたときも、この画面に戻ります。



#### **METER エリア**

インプットレベル、アウトプットレベル、フェーダーレベルのほか、SENDS ON FADER モードのときはセンドレベルを一覧表示します。



#### ① ONLINE ボタン

タップすると、SELECT MIXER 画面( $\rightarrow$  P.9)が表示されます。 オンラインのときは、ボタンの下に接続されている TF シリーズ本体の UNIT NAME が表示されます。 オフラインのときは、「OFFLINE」と表示されます。

#### ② UTILITY ボタン

タップすると UTILITY 画面( $\rightarrow$  P.10)が表示されます。

#### ③ SETUP ボタン

タップすると SETUP 画面(→ P.16)が表示されます。

#### (4) メーター表示

すべてのインプット / アウトプットメーターを表示します。メーターの下部には、メーターのブロックにあるチャンネル名がブロックごとに表示されています。

レベルメーターの表示色は、-21dBまでが緑色、-4dBまでが黄色、それ以上が赤色です。

メーターポイントは SETUP 画面(→ P.16)で設定します。

ただし、MONITOR チャンネルのメーターポイントは常にプリフェーダー(フェーダーの直前)です。

各チャンネルのフェーダーレベルが白線で表示されます。ノミナル(OdB)のときは、太い白線になります。 チャンネルがオフの場合は、メーターの背景が黒色になり、メーター自体も灰色で表示されます。

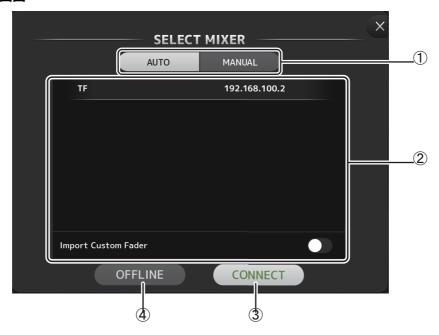


詳細表示エリアに表示されているチャンネルが、白枠で囲まれて表示されます。この白枠を左右にドラッグして、詳細表示エリアに表示するチャンネルを切り替えできます。このエリアを上にスワイプするたびに、詳細表示エリアの表示が Custom Fader Bank と通常表示とで切り替わります。また、長押しして表示されるメニューでも切り替えできます。

Custom Fader Bank が表示されているときは、メーターの各ブロックに、ブロックの先頭にあるチャンネルのネームのみが表示されます。ただし、先頭チャンネルがブランクや ROLL OUT になっているときは、何も表示されません。

SENDS ON FADER モードのときは、各チャンネルのセンドレベルが表示されます。このとき、フェーダーレベルを示す線は、送り先のチャンネルカラーで表示されます。

# SELECT MIXER 画面



#### ① AUTO/MANUAL 切り替えボタン

接続先の TF シリーズを自動検出するか、IP Address を手動で設定するかを切り替えます。

AUTO: 自動で検出します。

MANUAL: IP Address を手動で設定します。TF シリーズが異なるサブネット上にあっても接続できますが、レベルメーター情報は表示できなくなります。

#### ② デバイスリスト

ネットワーク上に見つかった TF シリーズ本体の UNIT NAME をリストで表示します。

接続したい TF シリーズ本体の UNIT NAME をタップして選択するとハイライト表示になります。

すべての TF シリーズ本体を表示しきれない場合は、上下にスワイプしてリストをスクロールすると表示されていない TF シリーズ本体の UNIT NAME が表示されます。

TF シリーズ本体に接続されている TF Editor や TF StageMix がすでに最大数(合計 3 台)に達している場合は、IP Address の左横に禁止マークが表示されます。禁止マークが表示されている TF シリーズ本体を選んで CONNECT ボタンを押すと、接続できなかったことを示すメッセージが表示されます。

# ③ CONNECT ボタン

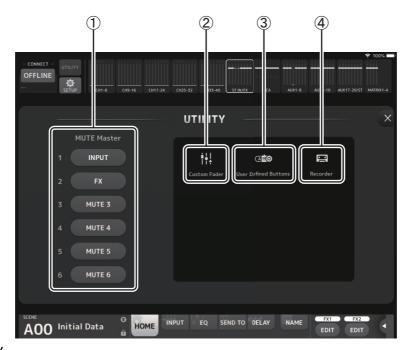
タップすると、デバイスリストで選択した TF シリーズ本体と接続します。

#### ④ OFFLINE ボタン

タップすると、オフラインデモモードに切り替わります。

StageMix と TF シリーズ本体が接続されているときは切断されます。

# UTILITY 画面



#### ① MUTE Master ボタン

各ミュートグループのマスターボタンです。オンのときは赤色で点灯します。

1 INPUT はインプットチャンネルを一括でミュートします。

2 FX は FX モジュールを一括でミュートします。 $AUX9/10 \sim AUX19/20$  チャンネルのインサーションエフェクトはバイパスされます。

 $3\sim 6$  は該当ミュートグループにアサインされたチャンネルを一括でミュートします。グループアサインの設定は TF シリーズ本体で行ないます。 $3\sim 5$  のボタンのラベルは TF シリーズ本体で設定したミュートグループ名になります。

# ② Custom Fader ボタン

タップすると、CUSTOM FADER BANK 画面が表示されます。(→ P.11)

# ③ User Defined Buttons ボタン

タップすると、USER DEFINED BUTTONS 画面が表示されます。(  $\rightarrow$  P.12)

#### ④ Recorder ボタン

タップすると、RECORDER 画面が表示されます。( $\rightarrow$ P.14)

#### **CUSTOM FADER BANK 画面**



#### ① フェーダーボタン

チャンネルを割り当てるフェーダーを選択します。

#### ② チャンネルボタン

① で選択したフェーダーに割り当てるチャンネルを選択します。

すでに選択されているチャンネルをタップすると、割り当てを解除します。None を選択すると、割り当てなしになります。 ROLL OUT を選択すると、HOME 画面で DCA を選択したときに、選択した DCA に属しているチャンネルが登録順に表示されます。 HOME 画面で DCA 以外を選択したときは、ROLL OUT の表示は最後に選択した DCA に属しているチャンネルが表示されたままになります。

複数のフェーダーにまとめて ROLL OUT を割り当てできます。たとえばフェーダー1 に ROLL OUT が割り当てられている状態でフェーダー5 に ROLL OUT を割り当てると、間のフェーダー2  $\sim$  4 にも ROLL OUT が自動的に割り当てられます。このとき、フェーダー2  $\sim$  4 にすでに別の機能が割り当てられていた場合は、ROLL OUT を割り当てるかどうかのメッセージが表示されます。

# CUSTOM FADER BANK 画面のメニュー

CUSTOM FADER BANK 画面では次のコンテキストメニューが用意されています。

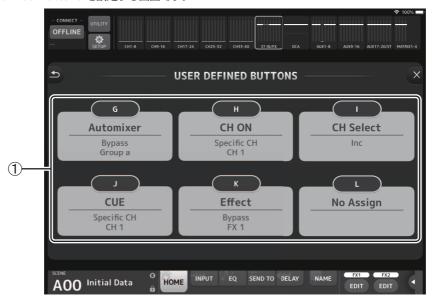
Import: TF シリーズ本体の CUSTOM FADER BANK の設定を読み込みます。

Clear All: フェーダーに対するすべての割り当てを、一括で解除(None に設定)します。

Default: フェーダーに対する割り当てを初期設定に戻します。

# USER DEFINED BUTTONS 画面

StageMix の User Defined Buttons を設定する画面です。



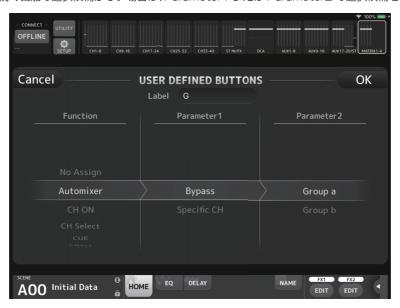
# ① BUTTONS 設定ボタン

タップすると、USER DEFINED BUTTONS に割り当てる機能を選択する画面(機能選択画面)を表示します。

#### 機能選択画面

Label 設定テキストボックスをタップすると、ラベル名をキーボードで直接入力できます。半角英数字で 6 文字までです。空欄にすることもできます。

Function の機能を選択すると、Parameter 1 の選択候補を表示し、Parameter 1 の機能を選択すると、Parameter 2 の選択候補を表示します。選択した機能に続く機能の選択候補がない場合は、Parameter 1 または Parameter 2 の選択候補を表示しません。



#### USER DEFINED BUTTONS に割り当てできる機能

Fuction	Parameter 1	Parameter2	機能説明				
No Assign	-	-	機能の割り当てなし				
Automixer	Bypass	Group a, Group b	Parameter2 で設定した AUTOMIXER のバイパス				
Automixei	Specific CH	CH1~CH8	Parameter2 で設定したチャンネルの AUTOMIXER の ON/OFF				
CH ON	Specific CH	すべてのチャンネル	Parameter2 で設定したチャンネルの ON/OFF				
CH Select	Inc	-	Parameter 1 で設定した方向にチャンネルを順次選択				
	Dec	-	Parameter に設定した方向にデヤノネルを順次選択				
	Specific CH	すべてのチャンネル	Parameter2 で設定したチャンネルの選択				
CUE	Specific CH	すべてのチャンネル	Parameter2 で設定したチャンネルの CUE の ON/OFF				
Effect	Bypass	FX1~2, INS FX1~6	Parameter2 で設定したエフェクトのバイパス				
Meter	Peak Hold ON	-	METER のピークホールド機能の ON/OFF				

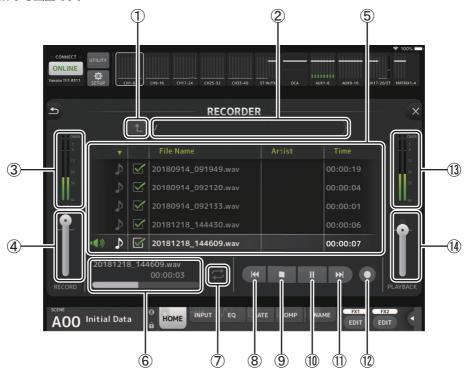
Fuction	Parameter1 Parameter2		機能説明					
	Output	-	モニターアウトの ON/OFF					
Monitor	Source Select	STEREO, SUB, ST IN1~2, USB 33/34, Playback	Parameter2 で設定したモニターソースを選択					
Mute Master	MUTE 1 (INPUT), MUTE 2 (FX), MUTE GROUP 3, MUTE GROUP 4, MUTE GROUP 5, MUTE GROUP 6	-	Parameter 1 で設定した対象のミュートグループの一括 ON/OFF					
	Oscillator ON	-	オシレーターの ON/OFF					
Oscillator	Specific CH	AUX1~20, STEREO L, STEREO R, SUB	Parameter2 で選択したチャンネルへのオシレーターアサインの ON/ OFF					
Page Change	Bookmark	-	2 秒以上の長押しで表示中の画面をブックマークに保存する。2 秒未満 の場合は保存してあった画面を呼び出す。					
	Bookmark with "SEL"	-	選択チャンネルも込みで、ブックマークに保存する。その他は同上。					
	Transport	Play/Pause	RECORDER 画面の Play/Pause ボタンと同じ機能					
		Stop	RECORDER 画面の Stop ボタンと同じ機能					
		Next	RECORDER 画面の Next ボタンと同じ機能					
Recorder		Previous	RECORDER 画面の Previous ボタンと同じ機能					
		Rec	RECORDER 画面の Rec ボタンと同じ機能					
		Auto Rec	録音を停止し、新しいファイルで次の録音を開始する機能					
		Rec & Start	ワンタッチで録音を開始する機能					
	Inc	-	一つ大きい番号の SCENE を選択					
	Dec	-	一つ小さい番号の SCENE を選択					
	Store	-	選択した番号にカレント設定を上書きストア					
Scene	Recall	-	選択した番号の SCENE をリコール					
	Inc Recall	-	一つ番号の大きい SCENE をリコール					
	Dec Recall	-	一つ番号の小さい SCENE をリコール					
	Direct Recall/Store	A00~A99, B00~B99	Parameter2 で設定した番号の SCENE をリコールする。2 秒以上長期 しした場合はその番号にカレント設定を上書きストアする。					

# NOTE \_

- ・TF シリーズ本体の [USER DEFINED KEYS] とこの USER DEFINED BUTTONS には、それぞれ別の機能を割り当てられます。 USER DEFINED BUTTONS に割り当てた機能は、メニューボタン(→ P.24)で実行できます。
- ・Automixer、Meter (Peak Hold ON)、Monitor、Oscillator は、TF シリーズ本体の機能を操作します。これらの機能は、TF StageMix にはありません。

# RECORDER 画面

本体の Recorder を操作する画面です。



#### ① ディレクトリー移動ボタン

カレントディレクトリーを 1 階層上に移動します。

#### ② カレントディレクトリー情報

USB ストレージデバイスのカレントディレクトリーのパスを表示します。

#### ③ 録音レベルメーター

録音レベルを表示します。

#### ④ 録音レベルスライダー

録音レベルを設定します。

#### ⑤ 曲名リスト

カレントディレクトリー内の曲ファイルとサブディレクトリーを表示します。

サブディレクトリーをタップすると、ディレクトリーを移動できます。

リストの項目名をタップすると、タップした項目の内容でソートします。

曲ファイル名をタップすると選択できます。

選択している曲のチェックボックス以外をタップすると、再生 / 一時停止をします。

チェックボックスをタップしてチェックすると、全曲再生時、再生の対象のファイルになります。

File Name 欄にはファイル名を表示します。

Artist 欄にはアーティスト情報が(MP3 ファイルのみ)、Time 欄には曲の長さを表示します。

#### ⑥ 曲ファイル情報表示インジケーター

MP3 ファイルの再生中は、ファイル名と再生位置を表示します。

WAV ファイルの再生中は、ファイル名と再生位置を表示します。

録音中は、WAV ファイルのファイル名と録音経過時間を表示します。

#### (7) プレイモード設定ボタン

ループ再生機能を設定します。

タップするたびに、機能が切り替わります。

: 1 曲を 1 度再生します(SINGLE)。

: 1 曲を繰り返し再生します(SINGLE REPEAT)。

: 曲名リストでチェックがオンになっている全曲を繰り返し再生します(ALL REPEAT)。

# ⑧ PREVIOUS ボタン

タップすると、曲の先頭または前曲の先頭に再生位置を移動します。

#### ⑨ 停止ボタン

録音 / 再生を停止します。

# ⑩ 再生 / 一時停止ボタン

曲の再生 / 一時停止をします。

# ① NEXT ボタン

次曲の先頭に再生位置を移動します。

#### (12) 録音ボタン

録音待機状態にします。

# ③ 再生レベルメーター

再生レベルを表示します。

# ⑭ 再生レベルスライダー

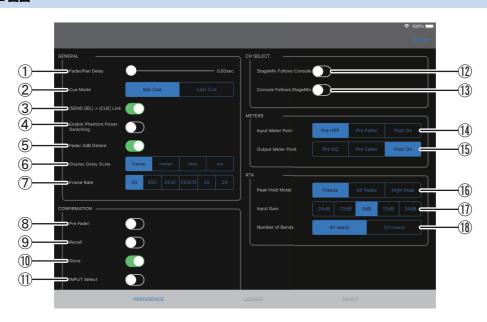
再生レベルを設定します。

# SETUP 画面

アプリケーション全体の設定を行ないます。

PREFERENCE、LICENSE、ABOUT の各画面が用意されています。画面下の画面名をタップすると、それぞれの画面が表示されます。

#### PREFERENCE 画面



# GENERAL エリア

1 Fader/Pan Delay

フェーダーやパンのノブをタップしてから実際に動かせるようになるまでの時間を設定します。

フェーダーやパンの値が意図せず動いてしまうのを防ぎます。

**設定範囲**:  $0.00 \sim 0.50 sec(0.01 sec$  単位)

2 Cue Mode

CUE のモードを切り替えます。

Mix Cue: 複数チャンネルの CUE が有効になります。

Last Cue: 最後に操作したチャンネルだけ CUE が有効になります。

③ [SEND SEL] > [CUE] Link

オンにすると、SENDS ON FADER モードの送り先選択に CUE が追従します。

(4) Enable Phantom Power Switching

INPUT 画面にある、ファンタム電源を供給する +48V ボタンを操作するかどうかを設定します。 オンのときは赤色で表示されます。オフにすると、INPUT 画面で +48V ボタンが操作できなくなります。

(5) Fader OdB Detent

オンにすると、フェーダーやパンを操作したときに、OdB やセンター(C) で一度止まります。さらにドラッグすると継続して設定を変更できます。

6 Display Delay Scale

HOME 画面の Processing エリア(→ P.19)に表示する Delay の単位をフレーム(frame)、メートル(meter)、フィート(feet)、ミリ秒 (ms)から選択します。

(7) Frame Rate

OUTPUT DELAY のエフェクトタイプで、frame 単位でのディレイ設定のフレームレートを選択します。

#### **CONFIRMATION エリア**

(8) Pre Fader

オンにすると、SENDS ON FADER モードのときに、PRE ボタンをオンにするためにタップすると確認メッセージを表示します。

9 Recall

オンにすると、SCENE 画面でシーンリコールをしたときに確認メッセージを表示します。

10 Store

オンにすると、SCENE 画面でシーンを保存したときに確認メッセージを表示します。

#### (11) INPUT Select

オンにすると、INPUT画面で入力ソースを変更したときに確認メッセージを表示します。

#### CH SELECT エリア

12) StageMix Follows Console

オンにすると、TF シリーズ本体のチャンネル選択に StageMix のチャンネル選択が追従します。

(13) Console Follows StageMix

オンにすると、StageMix のチャンネル選択に TF シリーズ本体のチャンネル選択が追従します。

#### **METERS エリア**

(14) Input Meter Point

入力レベルを計測するポイントを選択します。 Pre HPF: ヘッドアンプの直後(HPFの直前)

Pre Fader: フェーダーの直前 Post On: [ON]キーの直後

(15) Output Meter Point

出力レベルを計測するポイントを選択します。

Pre EQ: EQ の直前

Pre Fader: フェーダーの直前 Post On: [ON]キーの直後

#### RTA エリア

(6) Peak Hold Mode

RTA で表示するピークホールドのタイプを選択します。

Freeze: Hold ボタンをオンにすると、その時点の値で RTA 表示を止めます。Hold ボタンをオフにすると表示が更新されます。

All Peaks: すべての RTA 周波数帯の最大値を赤色で表示します。 High Peak: 最大値を測定した周波数帯を 1 箇所だけ赤色で表示します。

(17) Input Gain

RTA に使用する iPad のマイクのインプットゲインを選択します。

設定値:-24dB, -12dB, OdB, 12dB, 24dB

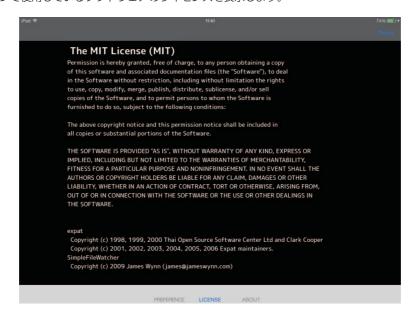
(18) Number of Bands

RTA で表示する周波数のバンド数を設定します。

設定値:61-band, 121-band

#### LICENSE 画面

StageMix アプリケーションで使用しているソフトウェアのライセンスを表示します。



# ABOUT 画面

アプリケーションのバージョン情報と、接続している TF シリーズ本体のバージョン情報を表示します。



# 詳細表示エリア



詳細表示エリアには、8 チャンネル分のストリップが表示されます。チャンネルの操作子以外の場所を左右にスワイプすると、表示されていないチャンネルを表示できます。



#### Processing エリア

各チャンネルの EQ、INPUT、GATE、COMP、SEND TO、GEQ、SEND PAN(SENDS ON FADER モード時)、DELAY、FX の設定を表示します。 チャンネルタイプによって表示される内容が変わります。 タップすると、内容に応じた設定画面が表示されます。 (Send Pan には設定画面がありませんが、アイコン上で指をスライドして値を変更できます。)

このエリアを左右にスワイプすると、表示する内容を切り替えできます。詳細表示エリアに表示されているチャンネルの表示がまとめて切り替わります。

表示する内容とチャンネルは次のとおりです。

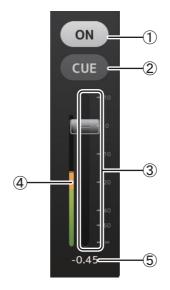
	CH1-32	CH33-40	STIN 1L-2R	FX 1L-2R	DCA1-8	STEREO	AUX1-8	AUX9/10- 19/20	SUB	MON	MATRIX
Input	✓	✓	✓	-	-	-	-	-	-	-	-
EQ	✓	✓	✓	✓	-	✓	✓	✓	✓	-	✓
Gate	✓	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Comp	✓	-	-	-	-	✓	✓	<b>√</b>	✓	-	-
GEQ	-	-	-	-	-	✓	✓	-	-	-	-
Send Pan	✓	✓	✓	✓	-	✓	✓	<b>√</b>	✓	-	-
Send To	✓	✓	✓	✓	-	-	-	-	-	-	-
Delay	-	-	✓	-	-	-	-	-	-	-	✓
FX	-	-	-	FX1-FX2	-	-	-	InsFX1- InsFX6	-	-	-

#### NOTE\_

- ・MATRIX チャンネルがステレオに設定されている場合は、STEREO、AUX1-8、AUX9/10-19/20、SUB に Send Pan が表示されます。
- ・PREFERENCE 画面の General エリアにある「Display Delay Scale」で、MATRIX チャンネルの DELAY ボックスの表示単位を frame(フレーム)、meter (メートル)、feet(フィート)、ms(ミリ秒)から選択できます。(→ P.16)

#### Fader エリア

各チャンネルのオン/オフやフェーダー値、CUE を操作します。



#### (1) ON ボタン

タップして、チャンネルのオン / オフを切り替えます。オンのときは点灯します。 MUTE Group がオンのときは点滅します。点滅中にタップすると、ミュートが解除されます。 また、チャンネルが属している DCA チャンネルが OFF になると、チャンネルの ON ボタンが点滅します。このときはタップが無効になります。

#### ② CUE ボタン

タップして、チャンネルの CUE のオン / オフを切り替えます。オンのときは点灯します。 MONITOR チャンネルでは表示されません。

#### ③ フェーダー

フェーダーのノブを上下にドラッグしてフェーダーレベルを調節します。 ノミナル値(OdB)で一度止まり、さらにドラッグすると継続してフェーダー値を変更できます。 左右にドラッグしてから上下にドラッグすると、細かい分解能で調節できます。 複数のフェーダーを同時に操作できます。

#### NOTE

- ・PREFERENCE 画面(→ P.16)で Fader/Pan Delay の設定をしている場合、フェーダーを操作できる状態になるとフェーダー値が水色で表示されます。
- ・PREFERENCE 画面(→ P.16)で Fader OdB Detent をオフにしているときは、ノミナル値で止まらなくなります。

#### ④ メーター表示

チャンネルのポストフェーダーのレベルを表示します。 MONITOR チャンネルやステレオリンクしているチャンネルでは2本表示されます。

DCA チャンネルでは表示されません。

#### (5) フェ**ーダー値**

現在のフェーダー値を表示します。数値をタップすると上下矢印ボタンが表示され、値の増減ができます。



#### CH Name エリア

パン(バランス)の操作や、チャンネルのナンバー/ネーム/アイコン/カラーを表示します。



#### ① パン/バランススライダー

左右にドラッグしてパン / バランスを設定します。 センターで一度止まり、さらにドラッグすると継続して値を変更できます。 センターに設定されているときは、丸いアイコンが表示されます。ダブルタップするとセンターになります。 複数のチャンネルのパン / バランスを同時に操作できます。

#### ② チャンネル表示

チャンネルナンバー、ネーム、アイコン、カラーを表示します。

# 概要ストリップエリア



概要ストリップエリアには、通常は ST チャンネルのストリップが表示されます。SENDS ON FADER モード時は、送り先の AUX チャンネル、SUB チャンネル、MATRIX チャンネルのストリップが表示されます。

ストリップ左側のチャンネル番号をタップすると、SENDS ON FADER モードに切り替わります。選択しているチャンネルはチャンネルカラーでハイライトされます。一番下の Exit または選択しているチャンネル番号をタップすると通常モードに戻ります。

SENDS ON FADER モード時に、選択しているチャンネルを長押しすると、長押ししたチャンネルへのセンドレベルをコピー/ペーストするた めのポップアップメニューが表示されます。

FX チャンネルを選択して SENDS ON FADER モードに入ったときは、何も表示されません。

#### 送り先に選択しているチャンネルへのセンドレベルをコピーして他のチャンネルにペーストする

1. センドレベルをコピーしたい送り先のチャンネルをタップする SENDS ON FADER モードに切り替わります。

> Aux 1 2 🥘 Aux 2 3 🥘 Aux 3 ON 6 🤕 Aux 6 8 🥘 Aux 8 4 🎁 Aux13/14 20 🎁 Aux19/20 FX1 H Rev

BAL AUX13/14 Aux13/..

2. センドレベルをコピーしたい送り先のチャンネルを長押しする

長押ししたチャンネルへのセンドレベルをコピー/ペーストするためのポップアップメニューが表示されます。



- 3. 「Copy」をタップする
- 4. コピー先のチャンネルを長押しする

長押ししたチャンネルへのセンドレベルをコピー/ペーストするためのポップアップメニューが表示されます。



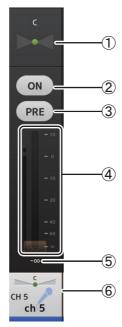
5. [Paste]をタップする

#### SENDS ON FADER 画面

フェーダーで各チャンネルのセンドレベルを調節する画面です。



SENDS ON FADER モードのときは、詳細表示エリアの表示が変わります。 ただし、送り先がないチャンネルの表示は変わりません。



# ① SEND PAN スライダー

送り先として選択したチャンネルがステレオのときに表示されます。センド PAN を調節します。送り先が FX、SUB のときは表示されません。

#### ② SEND ON ボタン

送り先に選択したチャンネルへの SEND のオン / オフを切り替えます。オンのときは点灯します。

# ③ PRE ボタン

送り先として選択したチャンネルに送る信号をフェーダーの前後のどちらに送るかを選択します。オンのときは点灯します。

**オン**:フェーダーの前

**オフ**:フェーダーの後

送り先がSUB、MATRIXのときは表示されません。

#### ④ フェーダー

送り先に選択したチャンネルへの SEND レベルを調整します。

#### ⑤ SEND レベル値

現在の SEND レベル値を表示します。数値をタップすると上下矢印ボタンが表示され、値の増減ができます。

# ⑥ CH NAME 表示

チャンネルのナンバー/ ネーム / アイコン / カラーを表示します。

# **TOOLBAR エリア**

選択しているシーンの表示や、詳細画面に表示する画面の選択、メニューが用意されています。



#### シーンエリア

選択しているシーン名を表示します。

タップすると SCENE 画面(→ P.26)が表示されます。

シーンをリコールしたあとパラメーターを変更するとEマークが表示されます。

プロテクトがかかったシーンを選択しているときは、鍵マークが表示されます。

現在展開されているシーンと異なるシーンが選択されているときは、シーン番号が点滅します。

#### ツールボタン

各ボタンをタップして、詳細表示エリアに表示する画面を切り替えます。表示中のボタンが点灯します。

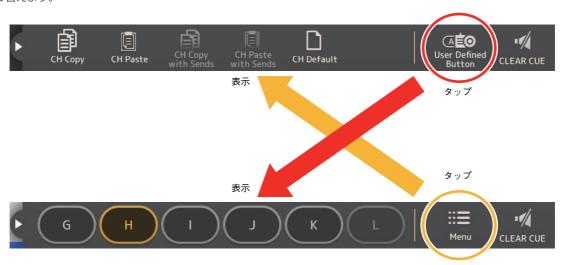
選択しているチャンネルによって、表示されるボタンは変わります。(Processing エリア $\rightarrow$  P.20)

ボタン数が多く表示しきれないボタンがある場合は、左右にスワイプすると表示されていないボタンが表示されます。

#### メニューボタン

タップすると隠れているメニューが表示されます。

表示されるメニューには、コンテキストメニューと User Defined Button メニューの 2 種類があり、Menu ボタンと User Defined Button で表示を切り替えます。



#### コンテキストメニュー

各画面で用意されているメニューが表示されます。メニューの詳細は、各画面の説明をご覧ください。

# User Defined Button メニュー

USER DEFINED BUTTONS が表示されます。USER DEFINED BUTTON に割り当てられている機能が有効なときはボタンが点灯し、タップすると機能が実行されます。

#### NOTE

- ・ Recorder Transport の Play/Pause 機能が割り当てられている場合は、ボタンが再生時に点灯、一時停止時に点滅、停止時に消灯します。
- ・Recorder Transport の Rec、Auto Rec、Rec & Start 機能が割り当てられている場合は、ボタンが録音時に点灯、録音中断時に点滅、停止時に消灯します。
- ・Page Change Bookmark 機能が割り当てられている場合は、長押しで表示中の画面をブックマークに保存し、タップで保存してあった画面を呼び出します。

# HOME 画面のメニュー

HOME 画面では次のコンテキストメニューが用意されています。

**CH Copy**: 選択しているチャンネルの設定をコピーします。

**CH Paste**: 選択しているチャンネルに、コピーしたチャンネルの設定をペーストします。

CH Copy with Sends: 選択しているチャンネルの設定をチャンネルに送られてくるセンドレベルも含めてコピーします。

CH Paste with Sends: 選択しているチャンネルにコピーしたチャンネルの設定をチャンネルに送られてくるセンドレベルも含めてペース

トします。

CH Default:選択しているチャンネルの設定を初期化します。Clear CUE:オンになっている CUE を一括でクリアします。

CH Copy with Sends、CH Paste with Sends は、FX、AUX、SUB、MATRIX チャンネル選択時のみ有効です。

# SCENE 画面

ミキサーの設定を保存した「シーン」を管理する画面です。



#### ① シーンリスト切り替えボタン

表示するシーンリストを切り替えます。

SCENE A: シーンリストAを表示します。

SCENE B: シーンリストBを表示します。

#### ② シーンリスト

保存されたシーンをリスト表示します。

リストの項目名をタップすると、タップした項目の内容でソートします(Information を除く)。

シーンをタップすると選択できます。選択したシーンはハイライト表示になり、呼び出しの対象になります。

現在呼び出しているシーンには、緑の三角マークが付きます。

Fade Time 欄にはシーンに設定されているフェードタイムが表示されます。フェードタイムが有効になっている場合、FADE 表示されます。フェードタイムの設定は TF シリーズ本体で行ないます。





鍵アイコンが付いているシーンは編集ができません。

Date 欄には、最後に保存した日時が表示されます。

#### ③ Store ボタン

現在のミキサーの設定をシーンリストで選択されている番号のシーンに保存します。 タップすると、タイトルとコメントを編集する画面を表示します。

PREFERENCE 画面(→ P.16)で Store Confirmation がオンのときは、ストアの実行前に確認メッセージが表示されます。OK ボタンを タップすると選択したシーンが保存されます。Store Confirmation がオフのときは、そのまま保存されます。

シーンリストで選択しているシーンを呼び出します。

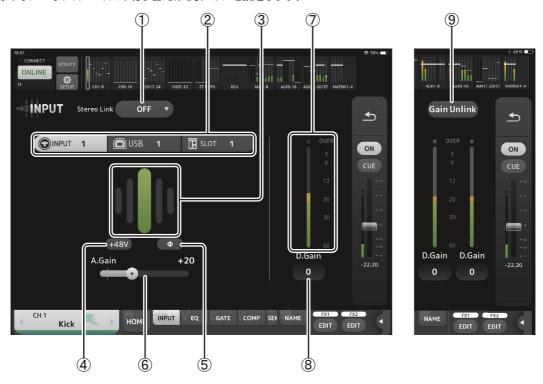
#### ⑤ Edit ボタン

タップすると、タイトルとコメントを編集する画面を表示します。

# INPUT 画面

TOOLBAR エリアの INPUT ボタンをタップすると表示されます。

ファンタム電源のオン / オフ、フェイズの切り替え、入力ゲインを設定します。



#### (1) ステレオリンク選択ボタン

隣り合った 2 つのモノラルインプットチャンネルを選択し、ステレオリンクの機能を設定します。タップすると、ポップアップメニューを表示します。

OFF: ステレオリンクの設定を無効にします。

CH1&2: ステレオリンクを設定します。設定すると、奇数チャンネルは L、偶数チャンネルは R にパンが振り切られます。CH の数字は選択しているチャンネルによって変わります。

CH2&3: ステレオリンクを設定します。設定すると、偶数チャンネルは L、奇数チャンネルは R にパンが振り切られます。CH の数字は選択しているチャンネルによって変わります。

#### ② インプット選択

TF シリーズ本体で選択されている入力ソースを選択します。

#### NOTE

TF シリーズ本体のインプット選択が SLOT の場合、TF シリーズ本体の SLOT SETUP 画面の [HA Control]ボタンが ON になっていな いときはアナログゲインおよび +48V ボタンの操作はできません。また、ヘッドアンプの操作ができない機器からの入力のときは、⑥ ゲインスライダーがデジタルゲインとなり、④ +48V ボタンが無効になります。

#### ③ GainFinder(ゲインファインダー)

入力ゲインレベルを表示します。音声を入力したときに、レベル表示が中央に合うように調整すると、入力ゲインを適切な範囲に設定できます。TF シリーズ本体のインプット選択で USB を選択しているときは、デジタル段の入力ゲインレベルが表示されます。
I/O 機器が未接続の状態で、本体のインプット選択が SLOT のときは「VIRTUAL」と表示されます。

#### ④ +48V ボタン

ヘッドアンプに供給するファンタム電源(+48V)のオン/オフを切り替えます。

オン:ファンタム電源をオンにします。

**オフ**:ファンタム電源をオフにします。

TF シリーズ本体のインプット選択で USB を選択しているときは非表示になります。

SETUP の PREFERENCE 画面で「Enable Phantom Power Switching」がオフのときは、無効になります。(→ P.16)

# ⑤ Φ(フェイズ)ボタン

入力信号の位相を切り替えます。オンにすると、入力される信号の位相を反転します。

#### ⑥ ゲインスライダー

TF シリーズ本体のインプット選択が INPUT のときは、ヘッドアンプのアナログゲインを設定します。 アナログゲインを +17dB と +18dB の間で変化させると、PAD(-24dB)のオン / オフが切り替わります。 TF シリーズ本体のインプット選択が USB のときは、デジタルゲインを設定します。

#### ⑦ レベルメーター

ゲイン調整後のレベルを表示します。

#### ⑧ デジタルゲインテキストボックス

デジタルゲインを設定します。初期設定では OdB に設定されています。数値をタップすると上下矢印ボタンが表示され、値の増減ができます。 TF シリーズ本体でインプット選択が USB のときと、ST IN チャンネルのときは表示されません。

#### (9) Gain Unlink ボタン

ステレオチャンネル、またはステレオリンクの設定をオンにしたときに表示されます。 ボタンを押している間、ゲイン操作のリンクが一時的にオフになり、左右のゲインを個別に操作できます。ボタンを離すと、ボタンを離した ときの差分を保ったまま左右のゲインがリンク動作します。

#### INPUT 画面のメニュー

INPUT 画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

ALL INPUT: 入力ソースを INPUT 端子に一括で切り替えます。

ALL USB: 入力ソースを USB TO HOST 端子に接続したコンピュータからの接続に一括で切り替えます。

ALL SLOT: 入力ソースを拡張スロットの NY64-D に接続された Dante ネットワーク機器からの入力に一括で切り替えます。

切り替える単位は下記のとおりとなります。

#### TF5:

CH1-32 が選択されているときは、CH1-32 を一括で切り替え。 CH33-40 が選択されているときは、CH33-40 を一括で切り替え。

#### TF3:

CH1-24 が選択されているときは、CH1-24 を一括で切り替え。 CH25-32 が選択されているときは、CH25-32 を一括で切り替え。 CH33-40 が選択されているときは、CH33-40 を一括で切り替え。

#### TF1/TF-RACK:

CH1-16 が選択されているときは、CH1-16 を一括で切り替え。 CH17-32 が選択されているときは、CH17-32 を一括で切り替え。

# EQ 画面

TOOLBAR エリアの EQ ボタンをタップすると表示されます。

各チャンネルの EQ を設定します。CH 1-32, AUX 1-20, STEREO, MATRIX には 4 バンド、CH33-40, STIN1, STIN2, FX1, FX2, SUB には 2 バンドのパラメトリック EQ が用意されています。



#### ① EQ ボタン

EQ のオン / オフを切り替えます。

#### ② HPF ボタン /LPF ボタン

HPF(ハイパスフィルター)のオン/オフを切り替えます。

CH1~CH40で表示されます。

SUB チャンネルでは LPF(ローパスフィルター)ボタンとなります。

#### ③ 1-knob ボタン

1-knob EQ モードとマニュアルモードを切り替えます。

1-knob EQ モードのときは、ボタンの横に 1-knob レベルスライダーが表示されます。

# ④ 1-knob レベルスライダー

1-knob EQ のかかり具合を調節します。

#### ⑤ EQ モードタイプ選択ボタン

1-knob EQ モードのときは、1-knob EQ のタイプを選択します。ボーカルには「Vocal」を、それ以外の楽器には、「Intensity」を選びます。「Intensity」の場合は、マニュアルモードで設定した値を中間値として、フラットから設定値をさらに強調した設定の間を操作できます。 出力チャンネルの EQ には「Loudness」が用意されています。低域と高域を強調する設定を操作できます。 選択できるタイプはチャンネルによって異なります。

マニュアルモードのときは、フィルタータイプを選択します。LOW バンドと HIGH バンドはフィルタータイプを切り替えできます。 CH1-CH40 の LOW バンドは、ローシェルビングとベルタイプを選べます。それ以外のチャンネル EQ(専用の HPF が装備されていない チャンネル EQ)では、HPF、ローシェルビング、ベルタイプから選べます。 HIGH バンドは、LPF、ハイシェルビング、ベルタイプから選べます。

# ⑥ EQ アウトプットレベルメーター

EQ の出力レベルを表示します。

#### ⑦ 周波数特性表示 / 設定

EQ やフィルターのパラメーターの設定値が表示されます。各バンドの周波数やゲインなどの変更に従って、特性カーブが変化します。 1-knob EQ モードの場合は、1-knob レベルスライダーを左右にドラッグして操作します。

マニュアルモードでは、カーブ上のハンドルをドラッグして設定を変更します。フィルタータイプがベルタイプのときは、グラフ上のカーブをピンチして Q の値を変更できます。

選択中のバンドのパラメーター情報がポップアップでハンドルの上側に表示されます。



■ の欄をタップすると、鍵アイコンが付いたり消えたりします。鍵アイコンを付けると、カットオフ周波数やゲインの変更を禁止できます。鍵アイコンはバンドごとに設定できます。



ハンドルをダブルタップすると、EQのゲインが初期設定に戻ります。

HPF がオンのときは、HPF のハンドルをドラッグして、カットオフ周波数を操作します。HPF は、1-knob のタイプが Intensity のときも独立して操作できます。

グラフの OdB 以下でパラメーターのない場所をタップすると、RTA や鍵盤が表示されます。音域と周波数の関係を把握するのに便利です。

はじめて EQ 画面を開いたときは、RTA 表示のために iPad のマイクを使用するかどうかの確認ダイアログが表示されます。



「許可しない」をタップすると、それ以降は RTA が表示されません。RTA を表示したい場合は、iOS の Settings → Privacy → Microphone 画面で、StageMix をオンにしてください。

#### NOTE

表示される RTA は、iPad のマイクからの入力音を解析します。

#### ® Hold ボタン

オンにすると RTA 表示内でピーク値を表示します。表示のしかたは、PREFERENCE 画面 ( $\rightarrow$  P.16)の Peak Hold Mode の設定に従います。RTA 表示がオフのときは、グレー表示になり無効になります。

# EQ 画面のメニュー

EQ画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

Copy: 選択しているチャンネルの EQ のパラメーターをコピーバッファーに格納します。

Paste: コピーバッファーに格納されている EQ のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。

Compare: 選択しているチャンネルの EQ のパラメーターと、コピーバッファーに格納されている EQ のパラメーターを切り替えて比較しま

す。

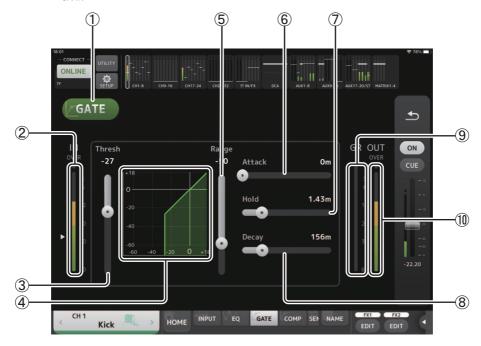
Gain Flat:選択しているチャンネルの EQ ゲインをフラットに設定します。

Default: EQ の設定を初期状態に設定します。

# GATE 画面

TOOLBAR エリアの GATE ボタンをタップすると表示されます。

チャンネルのゲートを設定します。スレッショルドレベル(しきい値)より小さい信号が入力された場合、出力を一定の値(RANGE)で小さくします。GATE は CH1  $\sim$  CH32 に搭載されています。



#### ① GATE ボタン

ゲート機能のオン/オフを切り替えます。

② **ゲートインプットレベルメーター** ゲートの入力レベルを表示します。

#### ③ Threshold スライダー

ゲートの効果がかかるしきい値のレベルを設定します。

# ④ ゲートグラフ

ゲートレベルの設定を視覚的に表示します。

# ⑤ Range スライダー

ゲートの効果がかかっているときの減衰量を設定します。

# ⑥ Attack スライダー

入力信号がスレッショルドレベルを超えてから、ゲートが開くまでの時間を設定します。

#### ⑦ Hold スライダー

入力信号がスレッショルドレベルを下回ったあとにゲートが閉じ始めるまでの待ち時間を設定します。

# ⑧ Decay スライダー

入力信号が HOLD の待ち時間を経たあと、ゲートが閉じるまでの時間を設定します。 設定値は、レベルが 6dB 変化するのに要する時間で表現します。

#### ⑨ GR(ゲインリダクション)メーター

ゲインリダクション量を表示します。

#### ⑩ OUT(ゲートアウトプット)メーター

ゲートの出力レベルを表示します。

# GATE 画面のメニュー

GATE 画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

**Copy**: 選択しているチャンネルの GATE のパラメーターをコピーバッファーに格納します。

Paste: コピーバッファーに格納されている GATE のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。

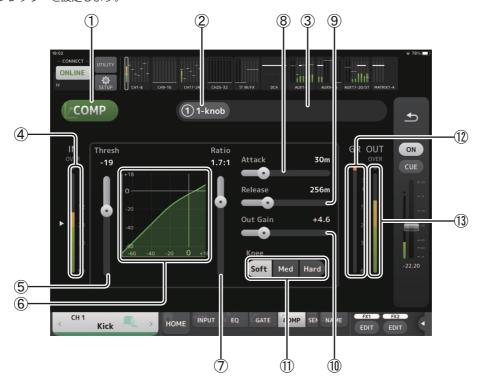
Compare:選択しているチャンネルの GATE のパラメーターと、コピーバッファーに格納されている GATE のパラメーターを切り替えて比較

します。

**Default**: GATE の設定を初期状態に設定します。

# COMP 画面

TOOLBAR エリアの COMP ボタンをタップすると表示されます。 各チャンネルのコンプレッサーを設定します。



#### ① COMP ボタン

コンプレッサー機能のオン/オフを切り替えます。

#### ② 1-knob ボタン

1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。

# ③ 1-knob レベルスライダー(1-knob モード時のみ)

1-knob COMPのかかり具合を調整します。

マニュアルモードのときは、表示されません。

# ④ コンプレッサーインプットレベルメーター

コンプレッサーへの入力レベルを表示します。

# ⑤ Threshold スライダー

コンプレッサーの効果がかかるしきい値のレベルを設定します。

# ⑥ コンプレッサーグラフ

設定状態を視覚的に表示します。

# ⑦ Ratio スライダー

コンプレッサーの圧縮量を設定します。

#### ⑧ Attack スライダー

入力信号が Threshold スライダーで設定した値を超えてから、コンプレッサーの効果が最大に達するまでの時間を設定します。

# ⑨ Release スライダー

入力信号が Threshold スライダーで設定した値以下になったあと、コンプレッサーの効果がなくなるまでの時間を設定します。設定値は、レベルが 6dB 変化するのに要する時間で表現します。

# ① Out Gain スライダー

コンプレッサーの出力レベルを調整します。

# ① Knee ボタン

スレッショルドレベルでの折れ曲がりの鋭さを選択します。Soft ではなめらかに、Hard では急激にコンプレッサーがかかります。

#### (12) GR(ゲインリダクション)メーター

ゲインリダクション量を表示します。

# ③ OUT(コンプレッサーアウトプット)メーター

コンプレッサーの出力レベルを表示します。

# COMP 画面のメニュー

COMP 画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

Copy: 選択しているチャンネルの COMP のパラメーターをコピーバッファーに格納します。

Paste: コピーバッファーに格納されている COMP のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。

Compare: 選択しているチャンネルの COMP のパラメーターと、コピーバッファーに格納されている COMP のパラメーターを切り替えて比

較します。

Default: COMPの設定を初期状態に設定します。

# SEND TO 画面

TOOLBAR エリアの SEND TO ボタンをタップすると表示されます。 各チャンネルからの AUX バスへの送り量を設定します。





# ① オン/オフボタン

AUX チャンネルへの送りのオン / オフを切り替えます。

# ② Pre ボタン

AUX チャンネルに送る信号をフェーダーの前後のどちらから送るかを選択します。

**オン**: フェーダーの前 **オフ**: フェーダーの後

#### ③ レベルスライダー

各 AUX チャンネルへの送り量を調整します。

# ④ SEND PAN スライダー

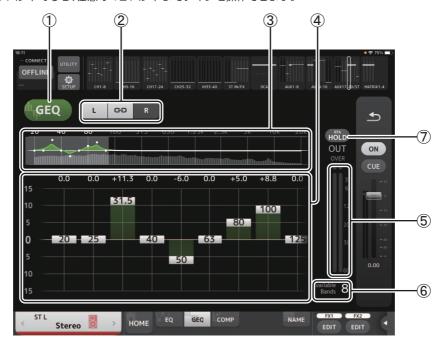
送り先の AUX バスがステレオのときに表示されます。センド PAN を調節します。

# GEQ 画面

TOOLBAR エリアの GEQ ボタンをタップすると表示されます。

AUX1~8と STEREO チャンネルには、グラフィック EQ(以下[GEQ])が内蔵されています。 モノラル仕様の 12 バンド GEQ です。バンド幅は 1/3 オクターブ刻み、ゲインの可変幅は  $\pm$  15dB です。

31BandGEQ と同じ31バンドのうち、任意の12バンドまでゲインを操作できます。



#### (1) GEQ ボタン

GEQ のオン/オフを切り替えます。

#### ② GEQ 設定チャンネル /LR リンク選択ボタン

シグナルタイプがステレオの AUX、または STEREO を選択した場合に表示されます。

モノラルの AUX の場合は表示されません。

○○ I:LR リンクのオン / オフを切り替えます。

L/R: 選択チャンネルの L  $\angle$  R を切り替えます。AUX チャンネルのときは、L  $\angle$  R の表示が AUX 1  $\angle$  AUX 2 のようになります。

#### ③ 周波数特性、RTA表示、ゲイン操作可能バンド選択

EQ の特性 / RTA を表示します。

タップすると、ゲインスライダーが、タップした周波数を中心に表示されます。

ゲインスライダーの操作中は、操作しているバンドの点がピンク色でハイライトされます。

#### ④ ゲインスライダー

ハンドルを上下にドラッグしてゲインを調整します。ハンドルの上部にゲインの値が表示されます。

ハンドルをダブルタップするとゲインが OdB になります。

ハンドル以外の場所を横にスワイプすると、ゲイン操作できるバンドの表示が切り替わります。

#### ⑤ 出力レベルメーター

GEQ の出力レベルを表示します。

# ⑥ 操作可能バンド表示

ゲインを操作できる未使用バンド数を表示します。

#### ⑦ Hold ボタン

オンにすると RTA 表示内でピーク値を表示します。表示のしかたは、PREFERENCE 画面(→ P.16)の Peak Hold Mode の設定に従います。

# GEQ 画面のメニュー

GEQ 画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

Copy: 選択しているチャンネルの GEQ のパラメーターをコピーバッファーに格納します。

Paste: コピーバッファーに格納されている GEQ のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。

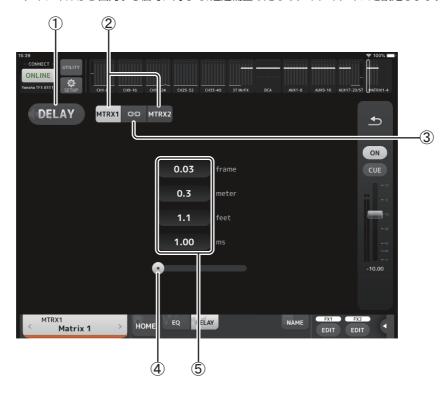
Compare: 選択しているチャンネルの GEQ のパラメーターと、コピーバッファーに格納されている GEQ のパラメーターを切り替えて比較し

ます。

Default: GEQ の設定を初期状態に設定します。

# DELAY 画面

MATRIX チャンネル、ST IN チャンネルを選択しているときに、TOOLBAR エリアの DELAY ボタンをタップすると表示されます。 MATRIX チャンネル、ST IN チャンネルから出力する信号に対して、遅延補正のためのディレイタイムを設定します。



#### ① DELAY ボタン

DELAY のオン / オフを切り替えます。

#### ② 表示切り替えボタン

MATRIX チャンネルが Stereo に設定されているときに、パラメーターを表示する MATRIX チャンネルを選択します。 ST IN チャンネルでは、2 つのボタンが常に表示されています。

# ③ LR Link ボタン

MATRIX チャンネルが Stereo に設定されているときに、オンにすると左右のチャンネルの DELAY のオン / オフとディレイタイムの操作をリンクします。ディレイタイムが違う値で設定されている場合は、差分を保ったままディレイタイムがリンク動作します。 ST IN チャンネルでは、LR Link ボタンが常に表示されています。(V4.0 以降)

# **NOTE**

MATRIX チャンネルでは、Stereo に設定されているときだけ表示されます。Stereo/MONOx2 の切り替えは、本体の SETUP 画面にある BUS SETUP 画面で設定します。

#### ④ DELAY スライダー

ディレイタイムを設定します。

ディレイタイムは frame(フレーム)、meter(メートル)、feet(フィート)、ms(ミリ秒)単位で表示されます。

#### ⑤ DELAY 設定テキストボックス

ディレイを frame(フレーム)、meter(メートル)、feet(フィート)、ms(ミリ秒)で指定できます。タップすると、数値で入力する画面が表示されます。

# DELAY 画面のメニュー

DELAY 画面では、次のコンテキストメニューが用意されています。

Copy: 選択しているチャンネルの DELAY のパラメーターをコピーバッファーに格納します。

Paste: コピーバッファーに格納されている DELAY のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。

Default: DELAY の設定を初期状態に設定します。

# FX 画面(FX1/FX2/InsFX1~6)

エフェクトの種類やパラメーターを設定します。



# ① TAP ボタン

タップする周期で BPM を設定します。ディレイやコーラスなどのエフェクトで表示されます。 TF シリーズ本体の [TAP] キーと連動します。

② エフェクトタイプボタン

タップすると、エフェクトを選択する EFFECT TYPE 画面が表示されます。

③ タイプ/ライブラリー名表示

選択しているエフェクトのタイプとライブラリー名を表示します。

④ パラメータースライダー

それぞれのエフェクトで設定できるパラメーターがスライダーで表示されます。

⑤ Sync ボタン

ディレイなど、テンポの設定ができるエフェクトのときに表示されます。 オンのときは同期するテンポを(1)TAP ボタンで設定できます。

⑥ Bypass ボタン

FX モジュールのバイパスをオン / オフします。

⑦ FX アウトプットレベルメーター

FX モジュールの出力レベルを表示します。

# NOTE \_

FX 画面を開く直前の画面に戻るには、概要ストリップエリアの戻るボタンや、TOOLBAR エリアの FX 1/FX2 EDIT ボタンをタップします。

# **EFFECT TYPE 画面**

ボタンをタップしてエフェクトタイプを選択します。



# FX 画面のメニュー

FX 画面では次のコンテキストメニューが用意されています。

Copy: 選択しているエフェクトのパラメーターをコピーバッファーに格納します。

Paste: コピーバッファーに格納されているエフェクトのパラメーターを、選択しているエフェクトにペーストします。

Compare: 選択しているエフェクトのパラメーターと、コピーバッファーに格納されているエフェクトのパラメーターを切り替えて比較します。

Default: 選択しているエフェクトのパラメーターを初期状態に設定します。

# NAME 画面

TOOLBAR エリアの NAME ボタンをタップすると表示されます。 チャンネル名に表示する名前、アイコン、チャンネルカラーを設定します。



#### 1) Name テキストボックス

チャンネル名を入力します。

テキストボックスをタップすると、キーボードで直接入力できます。半角英数字で8文字まで入力できます。

#### ② CH NAME 表示

チャンネルのナンバー/ ネーム / アイコン / カラーを表示します。この部分を左右にフリックすると、表示チャンネルが切り替わります。

#### ③ Icon ボタン

タップすると、チャンネルアイコンの一覧が画面下側に表示されます。

# ④ Category ボタン

表示するチャンネルアイコンのカテゴリーを切り替えます。 チャンネルの種類によって表示されるカテゴリーが変わります。

# ⑤ チャンネルアイコン選択

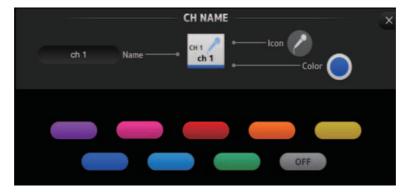
アイコンをタップすると、チャンネルアイコンとして反映されます。上下にドラッグすると、表示されていないアイコンが表示されます。

#### ⑥ Sample Name ボタン

選択したチャンネルアイコンと一緒によく使われるチャンネルネームの例を表示します。 チャンネルネームの例が書かれたボタンをタップすると、チャンネル名として反映されます。

#### ⑦ Color ボタン

タップすると、チャンネルカラーの一覧が画面下側に表示されます。



チャンネルカラーに設定したい色のボタンをタップすると、チャンネルカラーとして反映されます。

# WAP/ ルーターの DHCP サーバーセットアップ

- (1) ウェブのブラウザを使って、WAP(ワイヤレスアクセスポイント)またはルーターのウェブ設定ページにアクセスします。
- ② DHCP サーバーを有効にします。
- ③ DHCP サーバーがアサインできる IP アドレスの範囲を設定します。
- ④ コンソールの IP アドレスが範囲外であることを確認します。もし範囲内の場合は、IP アドレスを入れ替えてください。 (例: TF シリーズ本体の IP アドレスが 192.168.1.2 のときには、DHCP の範囲を 192.168.1.3  $\sim$  192.168.1.128 などにする)

#### NOTE

すべての WAP が DHCP サーバーに対応しているわけではありません。この場合、固定 IP アドレスを使って、iPad をセットアップしてください。

## SELECT MIXER 画面で TF シリーズが検出されない場合

アクセスポイントで IGMP スヌーピングが有効になっていると機器を正しく検出できないことがあります。IGMP スヌーピングをオフにしてお試しください。

#### TF Editor と一緒に StageMix を使う

TF Editor をインストールしたコンピューターと TF StageMix をインストールした iPad は、合計 3 台まで同時に使用できます。 ただし、TF Editor をインストールしたコンピューターはそのうち 1 台までです。

# 「インターネットへのリダイレクト」問題

iPad は、Wi-Fi ネットワークの選択時にインターネットへのアクセスを試みる場合があるため、Wi-Fi 機器(アクセスポイント / ルーター)の設定によっては、「インターネットに接続できない」というメッセージが iPad 画面に現れて、StageMix が TF シリーズ本体に接続できない場合があります。StageMix と TF シリーズ本体との接続にインターネット接続は不要ですので、Wi-Fi 機器を適切に設定することにより、このメッセージが出ないようにする必要があります。Wi-Fi 機器の設定変更の方法は、「リダイレクト機能」を無効にするなどがありますが、詳細は Wi-Fi 機器メーカーにお問い合わせください。

# 4 本以上のフェーダーを同時に動かすことができない場合

マルチタスク用ジェスチャがオンに設定されていると、StageMix で 4 本以上のフェーダーを同時に動かすことができないことがあります。 StageMix を使用する場合は、マルチタスク用ジェスチャをオフに設定しておくことをおすすめします。

- iPad で[設定]を押します。
- ② [一般]>[マルチタスク用ジェスチャ]>[オフ]に設定します。

#### 3 本以上のフェーダーを同時に動かすことができない場合

アクセシビリティ機能内のズーム機能がオンに設定されていると、StageMix で 3 本以上のフェーダーを同時に動かすことができないことがあります。StageMix を使用する場合は、ズーム機能をオフに設定しておくことをおすすめします。

- iPad で [設定]を押します。
- ② [一般]>[アクセシビリティ]>[ズーム機能]>[オフ]に設定します。

#### RTA が表示されない場合

最初に EQ 画面を開いたときに、iPad のマイクを使用しない設定をすると、それ以降は RTA が表示されなくなります。RTA を表示したい場合は、iOS の Settings  $\rightarrow$  Privacy  $\rightarrow$  Microphone 画面で、StageMix をオンにしてください。

ヤマハ プロオーディオ ウェブサイト http://www.yamahaproaudio.com/ ヤマハダウンロード https://download.yamaha.com/

Manual Development Group © 2015 Yamaha Corporation

2021年2月発行 CR-G0